

本買って難民救おう

書籍を購入すると、著者に支払われる印税の2割が寄付される「Chabo(チャボ)！」と呼ばれるプログラムが、今月上旬から始まった。寄付金は国際NGOを通じて難民・被災地支援に活用され、新しい寄付の仕組みとして注目されそうだ。



発案した勝間和代さん(右から2人目)と参加を表明した著者ら(東京都内)

「Chabo！」は経済評論家で、多くのビジネス関連著書を出版している勝間和代さんが発案した。正式名称は「チャリティー・ブック・プログラム」。勝間さんのほか、ビジネス書の著者4人と出版社7社が参加を表明している。寄付金はNPO法人「JEN(ジェン)」を通じて世

界の難民・被災地域への教育・自立支援に使われる。5人の既刊書10冊、6月以降の新刊予定書5冊の帯に、鶏のチャボをモチーフにしたシンボルマークを印刷。これらの本を購入すると、寄付に参加することができる。例えば700円の書籍で著者の受け取る印税が10%(70円)と

印税2割寄付

勝間和代さんら著者5人

すると、その20%(14円)が出版社から直接、JENに寄付される。今後、参加する作家や出版社、書籍の種類を増やし、寄付の輪を広げる考えだという。

JENは1994年設立の国際NGOで、旧ユーゴスラビアやスリランカ、新潟などでの活動実績がある。「Chabo！」による寄付金は、アフガニスタンの学校再建やイラクでの衛生教育などに役立つ。

勝間さんは「個人でできることには限界がある。本を買ってくれる読者と、寄付や支援のあり方について考えていきたい」と話している。

「Chabo！」に参加している著者・書籍についてはホームページ(<http://www.jen-npo.org/chabo/>)で確認する(1)がよい。